

主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について(小・中社会) ～令和3年度鹿児島学習定着度調査の結果から～

義務教育課

出題

全学年、難易度は例年並みで、当該学年で学習する内容を、基礎的・基本的な問題と思考・表現に関する問題を約2:1の割合で出題。

- ・ 小5は、日本の各地の気候の特色を雨温図の特徴から説明する問題や、日本の食料問題について表や資料から読み取って説明する問題等を出題。
- ・ 中1は、写真や雨温図を基に気候の特色を説明する問題、緯度・経度を活用し、時差等を求める問題、郷土の人物に関する問題等を出題。
- ・ 中2は、促成栽培や過疎など日本の地理に関する問題、江戸時代の大名の配置や参勤交代について説明する問題や江戸時代の政治改革の特徴等を出題。

※ 令和4年度は中学校において、時差に関する問題を共通して出題したが、令和5年度以降は、各学年における履修内容を出題予定(時差は中1で履修)

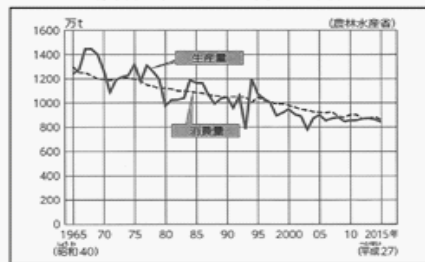
特徴ある問題から(小5 3(2))

(2) 写真1は、米づくりをする農家の人が、インターネットを使って米づくりの工夫や生産の様子を公開している様子です。農家の人は、なぜこのようなことをするのでしょうか。資料2を参考にして、その理由を、下の□の中に書きましょう。

(写真1) ある農家のウェブサイト



(資料2) 米の消費量の変化



【解答】 米の消費量が年々少なくなっているため、お米の良さを伝え、(自分の作っている米を)たくさん買ってもらえるようにするため。

【平均通過率】 58.3%

グラフを扱うときは、グラフが示す特徴(急激に変化している部分など)を提示し、そのようになった原因、理由、背景等を考えさせたい。

授業改善のポイント【小学校】

「グラフの見方(読み取り方)」⇒「表題の3点・単位の2点・変化の5点」を意識させ、変化の5点に焦点を当てた授業の実践を行いたい。

○表題の3点 … 表題・年度・出典

○単位の2点 … 縦軸(単位)・横軸(単位)

○変化の5点

… ア 段々上がる イ 段々下がる ウ 突然上がる エ 突然下がる オ 変化なし

◎ウ、エには特に注意

【指導例】

- 1 「漁業別の生産量の変化」 → 沖合漁業増加、遠洋漁業減少
【令和2年度 鹿児島学習定着度調査(小5)4(3)に出題】
- 2 「米の消費量と生産量の変化」 → 消費量、生産量、作付面積の減少
【我が国の農業における食料生産について(小5の教科書)】

■ 特徴ある問題から（中1 1 (3), 中2 1 (2)）

(2) 地図1中の東京が1月1日の午前0時のとき、ニューヨークは何月何日の何時か、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。ただし、経度15度で1時間の時差が生じ、日本の標準時子午線は兵庫県明石市を通る東経135度、アメリカのニューヨークは西経75度とする。

ア 12月31日の午前10時
ウ 1月1日の午前10時

イ 12月31日の午後2時
エ 1月1日の午後2時

【解答】ア 【平均通過率】 中1・・・ 53.2% 中2・・・ 54.2%

生徒が時差の概念をイメージできるようにしたい。地球儀や掛け地図を使う、映像を見せる、ICT（ソフト等）を活用するなど、授業の工夫を図りたい。定着を図るために、理解させた後は、演習問題に取り組むことが必須である。

■ 授業改善のポイント【中学校】

「時差に関する問題」⇒ 1 時差が生じる原因を考えさせる。
2 生徒がイメージできるようにし、丁寧な説明を行う。
3 問題演習を行う。

【参考】

「緯線が横で、経線が縦」

緯線	・・・横の線	赤道を中心に	北に北緯	南に南緯	※ 90度
経線	・・・縦の線	本初子午線を中心に	東に東経	西に西経	※180度

「経度15度＝1時間の時差」

② 1日（24時間）で地球は一回転（360度）するので、1時間で地球は $360 \div 24 = 15$ 度回転する。そのため、経度が15度ずれると1時間の時差が生じる。

『東経と東経』『西経と西経』の時差 → 『経度の差 $\div 15$ 』
『東経と西経』の時差 → 『経度の和 $\div 15$ 』

- ① 東京（東経135度）とニューヨーク（西経75度）の経度差は、 $135 + 75 = 210$ 度となる。
- ② 東京とニューヨークの時差は、 $210 \div 15 = 14$ となり、14時間となる。

② 日付変更線を越えるときは注意する。

東経180度（日付変更線）に近い国ほど時間は進んでいる。

【例】新年を迎える順番 1 日本、2 イギリス、3 アメリカ

- ③ 東京はニューヨークよりも時間が進んでいる。
- ④ 東京の時刻（1月1日午前0時）より14時間前に戻すと・・・12月31日の午前10時

■ 授業改善のポイント（小中共通）

学習指導要領改訂により、社会的事象そのものが学習内容となっている社会科においては、社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動を取り入れた授業実践が期待されている。

授業では、社会的な見方・考え方を働かせ、ペア・グループ活動などを取り入れながら多面的・多角的に考察・構想し、その過程や結果を説明したり論述したりできるようにすることが期待されている。

- 生きて働く知識の習得場面と思考力・判断力・表現力等の育成場面を、授業にバランスよく取り入れる。考えさせる場面を必ず入れ、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実践する。
- ICTを積極的かつ効果的に活用する。また、新聞記事等を活用して、タイムリーな話題を提供し、政治等に関心をもたせる。あわせて、自分たちの住んでいる郷土についても関心をもたせる工夫をする。
- 定期的に復習する場面を取り入れる。小テスト等で重要語句などの基礎・基本の定着を図る。また、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等で思考力・表現力の育成を図る。